

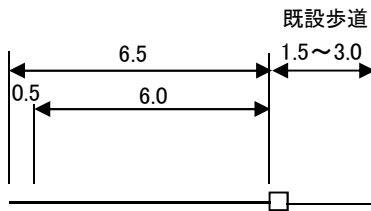
## 道路事業事前評価調書

路線・河川等名	主要地方道 <sup>みやづやぶ</sup> 宮津養父線	事業名	防災・安全交付金事業	補助・単独の別	補助
事業主体	京都府	事業箇所（区間）	与謝郡与謝野町 <sup>しもやまだ</sup> 下山田 地内		
事業概要	目的	<p>主要地方道宮津養父線は、宮津市を起点とし、兵庫県養父市へ至る延長39.5kmの幹線道路であり、当該地域と宮津市街地、与謝野町市街地を結ぶ主要な道路となっている。</p> <p>本事業箇所は、小学校の通学路となっているが、学校が立地する南側は歩道が未整備であり、北側のみ歩道が設置されていることから、南側の歩行者の安全を確保するため「通学路交通安全プログラム」に基づく要対策箇所になっている。このことから、府道南側に歩道を整備し、安全な歩行者交通の確保を図るものである。</p>			
	内容	<p>整備延長：L=400m                  現況幅員：W=9.5m 2車線 歩道：片側3.0m                  計画幅員：W=13.5m 2車線 歩道：2.5m、3.0m                  事業費：約1.1億円</p>			
	上位計画等	<p>明日の京都（中期計画）                  社会資本総合整備計画                  通学路交通安全プログラム（与謝野町）</p>			
	スケジュール	<p>着手年度：平成27年度 完成目標：平成30年度</p>			
事業の必要性	事業を巡る社会経済情勢及び地元情勢等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自動車交通量 5,145台/日</li> <li>○ 自転車交通量 122台/日</li> <li>○ 歩行者交通量 47人/日</li> <li>○ 小学校の通学路であるが、現況歩道は幅員が狭く、小学校が立地する南側は歩道未設置で、通学路交通安全プログラム要対策箇所に位置付けられており、早期の歩道整備が求められている。</li> </ul>			
事業の有効性	事業の効果及び費用対便益等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 南側に歩道を設置することで、通学路の安全性を向上させる。</li> <li>○ 線形改良により、安全で円滑な交通を確保する。</li> </ul>			
事業の効率性等	コスト縮減代替案立案等の可能性及び良好な環境形成・保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ バリアフリー構造の歩道として整備し、歩行者及び自転車の交通環境が改善される。</li> </ul>			
総合評価	<p>本事業は、通学路における児童及び歩行者・自転車の安全性の向上を図るために、新規着手の必要がある。</p>				

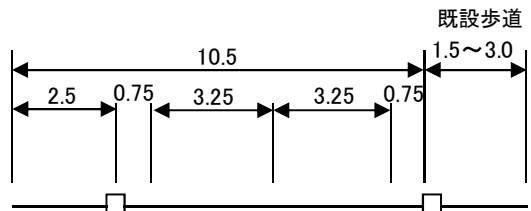
【位置図】



【現況横断面図】（単位m）



【計画横断面図】（単位m）



【現況写真】



須川医院前。北側のみ歩道があり、南側から来た歩行者は交差点部で北側歩道に行くために、横断せざるを得ない状況



小学校前の横断歩道を渡り、北側の歩道へ通学しているが、宮津市方面は、その先に信号及び横断歩道がない状況

わ  
『環』の公共事業構想ガイドライン評価シート

		作成年月日	平成27年 5月 1日		
		作成部署	建設交通部道路管理課		
事業名	主要地方道宮津養父線 防災・安全交付金事業	地区名	与謝野町下山田 地内		
概算事業費	約1.1億円	事業期間	平成27年度～平成30年度		
事業概要	歩道整備 L=400m W=6.0(10.5)m				
目指すべき環境像	当該箇所は、集落を中心とした田園地帯に位置し、緑豊かな自然に囲まれた地域である。そのため、現状の自然環境を維持するとともに安全な道路交通に配慮した道路整備を行う。				
関連する公共事業	なし				
評価項目		施工地の環境特性と目標	環境配慮・環境創造のための措置内容	環境評価	
	<table border="1"> <tr> <th>主要な評価の視点</th> <th>選定要否</th> </tr> </table>				主要な評価の視点
主要な評価の視点	選定要否				
地球環境・自然環境	地球温暖化(CO <sub>2</sub> 排出量等)	○	見通しが悪いことによる減速・加速に伴うCO <sub>2</sub> 排出量の低減を図る。	線形改良による見通しの改善により、円滑な通行を確保しCO <sub>2</sub> 排出量を低減させる。	4
	地形・地質				
	物質循環(土砂移動)				
	野生生物・絶滅危惧種				
	生態系				
	その他				
生活環境	ユニバーサルデザイン	○	施工地は、小中学生の通学路となっているが、小学校が立地する南側に歩道が設置されていないため、安全な歩行空間を確保する必要がある。	バリアフリー構造の歩道を設置し、誰もが安全に通行できる歩行空間を整備する。	4
	水環境・水循環				
	大気環境				
	土壌・地盤環境		事業の実施により施工中、騒音・振動の発生が予測されるため、発生を抑制する。	早朝や夜間の工事を極力避けるとともに低振動、低騒音の建設機械を使用する。	4
	騒音・振動	○			
	廃棄物・リサイクル				
	化学物質・粉じん等				
	電磁波・電波・日照				
	その他				
地域個性・文化環境	景観	○	現道周辺は、田園風景の広がる自然豊かな箇所であるため、極力景観への影響を避ける。	現道を生かし、改修範囲を最小限に抑えた計画を採用している。	3
	里山の保全				
	地域の文化資産				
	伝統的行祭事				
	地域住民との協働				
	その他				
外部評価					